

## 「環境教育揭示用教材 第2号」の補助資料の活用例

児童・生徒の持続可能な社会を構築していくための資質・能力の更なる育成を図ることを目的として作成した「環境教育揭示用教材 第2号」（下の二次元コード・リンク参照）の内容を、より深めるための補助資料・活用例・ワークシートです。本補助資料は、一人1台端末を活用して、リンク先のホームページ等から情報を収集し、収集した情報を基に話し合いを行う等、児童・生徒が主体的に学習に取り組むことができます。

### 補助資料の活用例

## 人も生き物も住みやすい街づくりのために

揭示用教材



補助資料



ワークシート



- ① **ねらい** 身近な生物と人間が共存する持続可能な自然環境を保全しようとする意欲を育成する。また、環境の保全に向けた実践を行おうとする態度を育成する。
- ② **環境教育における主な内容 (ESDの構成概念)** 自然や生命の尊重(多様性・公平性)、生態系の保全(相互性・責任性)生活様式の見直し(責任性)  
※環境教育指導資料 P8、P9 参照 (二次元コード・リンク参照)
- ③ **関連するSDGsの目標** 【SDGs 11】住み続けられるまちづくりを (小学校・中学校共通テーマ) 【SDGs 14】海の豊かさを守ろう、【SDGs 15】陸の豊かさを守ろう
- ④ **主な活動**

○主な活動	□教師の支援 ●留意点	◆補助資料等との関連 ■関連リンク
○補助資料①の昔の東京の川や海の様子を見て、気付いたことを話し合う。  ○補助資料②東京都下水道局のホームページ「下水道アドベンチャー」の「皆さんは下水道についてどんなことを知っていますか」(4'04"動画)を視聴し、下水道の仕組みや役割について知る。  ○補助資料③を見て、井の頭公園の池の水をきれいにする活動について知る。 ○補助資料④東京都環境局「外来生物について楽しく学ぼう子ども学習サイト」を見て、外来生物について知る。 ○補助資料⑤を見て、生き物が住みやすい場所はどのような場所か、生き物が住みやすい環境にするために自分にできることは何かを考え、話し合う。 ○自分にできることを発表する。 ※話し合いや発表の場面では意見交換やブレゼンテーションができるソフトやアプリを活用した授業展開が考えられる。	●汚れた川や海で、生き物は生きることができたかどうか考えさせる。 ※生き物は生存していたが、きれいな水に住む生き物は生きていけないこと等を考えさせたい。 ●水再生センターで水が浄化されることにより、生き物が生きるために大切な水循環が実現できていることに気付かせる。 □必要に応じて、東京都環境局「写真集記録『東京の公害』」や東京都水道局「水再生センター処理のしくみ」を提示する。 ●きれいな自然を取り戻そうとする活動を行っている人々がいることに気付かせる。 ●外来生物について知り、かいぼりで外来生物を取り除いた理由を考えさせる。 □環境省「外来種問題を考える 注目の外来種」に掲載されている外来種を提示する。  □児童一人一人が自然環境保全につながる生活を心掛ける必要があることに気付くよう、振り返らせる。	◆補助資料等との関連 ■関連リンク ◆補助資料① ◆ワークシート①② ■東京都環境局「写真集記録『東京の公害』」  ◆補助資料② ■東京都下水道局「下水処理の解説」  ◆補助資料③ ◆補助資料④ ■環境省「外来種問題を考える 注目の外来種」 ◆環境教育指導資料 P4 9～ ◆補助資料⑤ ◆ワークシート③

※東京都教育委員会ホームページで、本補助資料を公開しています。環境教育指導資料及び環境教育揭示用教材も公開しておりますので、併せて御活用ください。

補助資料  
本資料



環境教育指導資料  
教師用



環境教育揭示用教材  
児童・生徒・教師用



人も生き物も住みやすい街づくりのために

年 組 名前

- ① <sup>むかし</sup>昔の東京の川や海の様子を見て、<sup>きづ</sup>気付いたことを書きましょう



写真提供：東京都環境局

- ② <sup>むかし</sup>昔の東京の川や海で、<sup>もの</sup>生き物は生きることができるでしょうか



写真提供：東京都環境局

- ③ <sup>もの</sup>生き物がすみやすい場所とは、<sup>ばしょ</sup>どういう場所でしょうか



無許可転載不可